

1 対象年次、単位数、使用教科書

2年次以上、3単位
 ビジネス経済 佐々木宏夫 著 (実教出版)

2 科目の目標

ビジネスに必要な経済に関する基礎的な知識を習得させ、経済の仕組みや概念について理解させるとともに、経済事象を主体的に考える能力と態度を育てる。

3 評価規準 (何を評価するか)

レポート (提出時期)
 スクーリング出席時間数
 試験

4 評価基準 (どんな方法で評価するか)

レポート	・上記レポート目標の基本的な部分のみ理解している場合は、理解度に応じて評価2～3、発展的部分まで理解できていると判断する場合は評価4～5とする。基本的な部分が理解できていない場合は再提出とする。
------	---

5 試験範囲と試験による評価基準

- ①R 1～3の範囲で7月試験を、R 4～6の範囲で10月試験を、R 7～9の範囲で1月試験を実施。試験内容は基本的な部分から約50%、発展的な部分から約50%を出題し、**評価は30～40点を2、41～70点を3、71～80点を4、81点以上を5とする。なお、29点以下については再試験とする。**
- ②再試験を繰り返してもなお基準点 (30点) に達しない場合は1とし、単位認定はしない。

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングに取り組む姿勢を考慮し、学年末評価の参考資料とする。
 0～5時間は単位認定はしない。

R回数	項目	内容	教科書	標準提出時期
1	Introduction 第1章 市場と経済	身近な経済事象と世界経済のつながりの考察を通して、経済学を学ぶ意義を理解する。	p 5～20	4月下旬
2	第1章 市場と経済	現代の市場経済の特色について、サービス化・情報化・国際化の観点から考察する。	p 21～30	5月下旬
3	第2章 需要と供給	財と市場が、対の関係であることを理解する。	p 31～42	6月中旬
4	第2章 需要と供給	供給の意味を理解させ、価格と供給量との関係を理解させるとともに、供給曲線が右上がりになることを理解する。	p 43～54	7月下旬
5	第3章 価格決定と市場の役割	需要曲線と供給曲線を図示しながら、均衡点で均衡価格と均衡量が達成されることを理解する。	p55～76	8月下旬
6	第4章 経済成長と景気循環	マクロ経済学について再確認する。	p77～93	9月下旬
7	第4章 経済成長と景気循環	実質 GDP と名目 GDP の概念を理解させ、経済成長率を理解させると同時に、GDP デフレーターを認識する。	p94～112	10月下旬
8	第5章 経済政策	市場の失敗について認識し、公共財の供給に対する問題点を把握することで、政府の資源配分機能を理解する。	p113～124	11月下旬
9	第5章 経済政策	金融市場について概観させ、金融資産に対する収益とリスクの関係を認識し、ポートフォリオ選択について考察する。	p125～135	12月中旬